

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「や」優しい心で 「さ」さわやかな笑顔 「し」信頼関係を大切に 「い」一緒に楽しくと、独自の理念で、認知症高齢者との関わりを大切にしており、また、地域密着サービスとして『やさしい』には、地域の方々との優しい交流の意味合いもあり、運営理念を実現している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念はリビングに掲示し、また、ミーティング、職員会議の中で理解しやすく伝えており、全員で共有した考えが持てるように、一つひとつの意味を確かめ合って業務にあたっている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームだよりを定期的に発行し、その中で理念等を分かりやすく記載しており、家族や地域の方々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方には仲良くしてもらい、普段から声をかけたり、かけてもらっている。また、季節の野菜や米などを頂いたり、親しい付き合いをさせてもらっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事には、地域の方々を招待したり、また、地域の小学校の行事に招いてもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族に理解を得ながら、地域の方のホーム見学を受け入れている。認知症について相談があれば、力を貸している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価をケア内容の充実と向上として受け止め、評価結果を活かして、更なる質の向上に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、既に5回開催しており、話し合いの中で得た情報、意見を活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便り等を置かせてもらうようお願いし、持参時には質問等、話ができる機会を作っている。	○	行事の際にも、参加してもらえるよう働きかけていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会で、権利擁護や成年後見制度に関する制度を学んでいる。	○	現在、利用を考えている入居者がおり、地域権利擁護事業の話を進めているので、今後も学んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『虐待防止、対応マニュアル』を基に、職員で話し合いの場を持っている。また、定期的な勉強会で、講師による指導を受け、虐待について深く学んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かな点まで説明している。後日、生じた質問点について回答できるよう配慮している。また、グループホームに関する内容が分かりやすく理解できるよう、文書による「グループホームQ&A」を独自に作成している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に「ご意見箱」を設置している。また、「苦情要望 記録簿」に利用者が発した小さなことも記録し、内容・原因の分析や今後の対応、改善点について、職員全員で話し合っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に家族への便りを出しており、近況報告をしている。また、訪問時には、日頃撮った写真を見てもらい、渡している。職員の異動は最小限に抑え、異動の際は、口頭及び文書にて家族に知らせる体制がある。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に「苦情箱」を設置している。また、家族懇親会を開催し、ホームに関する要望について、気軽に話し合える機会を設けている。契約時の重要事項説明書や掲示物に、第三者機関への苦情、要望窓口機関の案内を明記し、口頭により説明している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、運営者参加の定例会議を開催し、個々の利用者に関すること、職員間の意見や提案を持ち上げて、意見が反映される機会を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務調整は、利用者や家族に合わせて、柔軟な体制を取っている。家族が通院介助ができない場合は、介助の必要な時間に職員を配置したり、行事の際は多めに配置している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係を崩さないよう、職員の異動は最小限に抑えるよう努力している。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画の中に、内部での定期的な研修会を計画しており、さまざまなテーマで知識の習得を行っている。また、外部研修は、その都度、職員に情報として連絡し、参加する機会を作っている。参加者は研修報告書を提出し、質の向上に活かしている。</p>		
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同グループの事業所が他に3か所あり、常に交流する機会を持ち、情報交換をしている。また、地区の連絡協議会に参加しており、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、病院、老人介護支援センター等の職員と情報交換や事例検討会を行い、交流の場を持っている。</p>		
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スーパーバイザーを導入しており、常に、管理者や職員の相談に応じる体制がある。また、月に1回の定例会議にて、運営者と話し合える場を持っている。年に2回運営者との個人面接があり、直接悩みや希望、要望を話せる機会がある。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>「自己評価表」の提出や管理者から見た職員の「人事考課表」により、個々の職員の勤務状況を把握している。それに基づき、個人面接から問題や悩みを解消し、向上心を持って働ける職場づくりをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回の相談時から、しっかりと状態把握に努めて面接等を行い、要望や不安などを聴き、安心してもらえるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回の相談時から、家族の話に耳を傾け、不安の解消や希望、要望をしっかりと聞いている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時からしっかりと状態把握に努めて面接等を行い、本人と家族が必要としていることを見極めている。他のサービスを利用していた方は、事業所を訪問し、利用時の状態を聞いている。居宅サービスの登録のある方は、介護支援専門員から情報をもらっている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状態に応じて、家族の協力を得ながら、馴染めるまでは、連携を密にしている。慣れるまでの面会回数や、外出・外泊を職員と家族で相談し、関わりを多く持つよう配慮している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、昔の仕事の話や戦時中の話など、本人が好まれる話をしてもらっている。また、家事を一緒に行い、家族の一員として共に暮らしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望などを、毎日の会話の中でよく聴き、希望に沿えるよう家族とも相談しながら、ケアに取り組んでいる。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自の「発症経過シート」「家族状況とグループホームに期待する事」「バックグラウンド」「生活の様子」のシートを利用し、個々の生活歴や状態像の把握に努め、本人が暮らしやすいよう努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の記録に一日の言動行動、身体状況などを詳しく記録し、状態を把握している。また、急に変化があった時は、職員全体で話し合い、現状の把握と今後の対策を相談している。	
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づいて、個別の介護計画を作成している。計画作成時は、チームケアのための担当者会議を開催し、意見を反映させた介護計画を立てている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回、見直しを行っている。また、状態に変化があれば直ちに会議を開き、家族、医療機関の関係者等と話し合い、計画の見直しを行い、新たな計画を作成している。計画は職員間で共有している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に一日の言動、行動、身体状況などを詳しく記録している。「行動計画実施記録」は計画に連動した内容で、毎日のケアの実践、結果を記録し、毎月評価を行うことにより、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームと家族が、気兼ねなく家庭的なつき合いができるよう、家族懇親会や面会時に話をしている。また、家族の希望があれば、利用者の居室へ宿泊してもらえるよう布団なども用意している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の小学校との交流があり、行事に参加させてもらっている。また、月に1回はボランティアから手話を学びながら、楽しく過ごしている。消防訓練は、地域の消防署の協力をもらい、利用者と一緒に訓練を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の介護支援専門員の連絡協議会に2か月に1回参加し、他のケアマネジャーや他の事業所の担当者と、常に連携を持っている。また、他サービスが必要な際は、利用できる体制がある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの担当者とは、2か月に1回の運営推進会議で情報交換している。不明な点や質問があれば、指導してもらっている。	○	今後、地域包括支援センターと関わりを多く持ち、ホームにできることがあれば、地域の在宅で暮らしている認知症高齢者やその家族とも関わりを持っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入退居の際は、家族、かかりつけ医や関係する担当者間でさまざまな事項を想定し、十分な話し合いを行っている。入居時には馴染みの物を持ち込んでもらい、少しでも安心して生活できるように努めている。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>独自の「プライバシー保護の取り扱いマニュアル」を作成しており、個人情報について適切な取り扱いをしている。また、入居者を人生の先輩として尊敬し、言葉かけに注意し、自尊心を傷つけないよう配慮している。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者が主体であり、利用者が自己決定できるような言葉かけに気をつけている。レクリエーション時は、一人ひとりが主役になって楽しめるよう働きかけている。個々に役割を持って生活し、自分の気持ちを表現できるよう支援している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務中心や職員のペースにならないようにしている。ゆったりと自由に暮らせるよう、一人ひとりの生活リズムを把握し、利用者に合わせて支援している。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>洋服選びや髪型等は、利用者の希望に沿って、力量に応じて助言したり、一緒に行っている。理美容は、訪問で美容師に来てもらっているが、本人の望む店がある方は、家族の協力を得て、いきつけの美容院へ行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけることにより、より不穏症状が増すことを職員全員が把握できている。不穏症状がある方は、傍に寄り添い、安心できるように対応している。現在、利用者がホームの生活に慣れており、職員も個々の習慣を把握している。</p>		
67	<p>見守りしやすいよう間取りを工夫しており、常にどこにいるかを把握している。また、居室内に訪室する時は、必ずロックや言葉をかけてプライバシーに配慮している。</p>		
68	<p>一人ひとりの力量に応じて管理している。注意が必要な物は預かり、必要な時に出し、針仕事などをしてもらっている。ホームの刃物類は、使用していないときは目につかない所へ保管している。</p>		
69	<p>独自の「事故防止マニュアル」を作成している。転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等に応じた取り決めがあり、専門的な知識を習得した上で、個々の状態に合わせて対応し、事故防止に取り組んでいる。</p>		
70	<p>年間研修計画の中に入れて、定期的に学習、実習している。事業所内での勉強会のほかに、町で行う講習会にも参加している。新人職員や参加できなかった職員には、管理者が個々に指導している。</p>		
71	<p>年2回避難、消防訓練を行っている。地域の方々にも協力をお願いしている。また、夜間の火災を想定した訓練は、勉強会で行っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>リスクは事前に家族に話している。リスクを認識し、自由な生活空間を大切にしながら危険回避のため、家族と話し合い、対策を講じている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎朝バイタルチェックを行い、記録し、身体的変化があれば、細かいことでも職員間で話し合っている。また、異常があれば、医療機関に連絡し、指示を仰いでいる。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者の服薬一覧表を作成し、職員が覚えやすいよう工夫している。処方箋にて薬の効能、効果、注意事項が把握できている。また、症状に変化があれば医師に相談し、指示を仰いでいる。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>散歩や適度な運動を行っている。水分をしっかり摂るよう工夫している。献立には、根菜類や繊維の多い食材、乳製品を必ず取り入れ、スムーズな排便ができるよう便秘予防対策を行っている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行っている。磨き残しがある方は、一部介助している。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士が献立を作成している。毎食の食事摂取量を、介護日誌に記録している。水分を取りたがらない人には、お茶や水以外の好みの飲み物、ゼリーを食べてもらうように工夫している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	独自の「感染症マニュアル」を作成している。定期的勉強会で知識を習得し、感染防止に努めている。インフルエンザ予防接種は、毎年、職員・利用者全員が接種している。外からホームへ入る際は、手洗い・うがい・手指消毒を励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	『食事管理マニュアル』の「キッチン衛生管理」「食中毒防止対策」に沿って、正しい知識を知り、食中毒防止に努めている。食器、まな板、布巾など、定期的に消毒を行っている。食材は前日に市場から届き、冷蔵、冷凍庫にて保存し、調理の際には十分に火を通している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近所の方が訪ねてきやすいように、玄関扉をオープンにしたり、夏場は網戸にしている。玄関周辺には花を育て、利用者が手入れをし、近所の方が声をかけやすい雰囲気づくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやブラインドで日差しが柔らかくなるよう配慮し、夏場はすだれをかけて強い日差しを避け、季節感を出す工夫をしている。季節の花と一緒に生け、居心地よく過ごせる工夫をしている。テレビの音量も個々に応じて調整している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、配置を工夫している。独りになれたり、気の合う方と過ごせる場所を確保している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時の準備物説明の際に、使い慣れた家具や生活用品を持って来てもらい、環境が急変しないよう配慮している。本人の趣味に合わせて、机や椅子、テレビ等を使用している方もいる。ベッドでなく布団で生活されてきた方は布団を敷く等、今までの習慣を崩さないようにしている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>1日2回以上の換気を行っている。気候のよい時は窓を開け、季節の風を感じてもらっている。夏は28度、冬は20度に保つよう小まめに調整している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれの身体機能に合わせて、各箇所に手すりを設置している。浴室には手すり、介助バー、滑り止め等で安全を確保している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>手作りのカレンダーを見やすい所に設置したり、居室には手作りの表札を取りつけ、自分の部屋が分かりやすいように工夫している。トイレや浴室の表札は、目線の高さになっている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関周辺には庭やプランターがあり、水やりや草抜きをして、利用者が穏やかな気持ちになれるようにしている。また、屋外用テーブルや椅子を置き、日なたぼっこをしたり、お茶などを楽しめる空間を設けている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然に囲まれた環境を活かして、屋外に出かける時間が増えるよう常に考えている。自然の中で、季節の風を肌で感じたり、花や木々の緑を見て、気持ちが晴れて心が癒されることを、一緒に暮らしている入居者と職員が共に感じ、共に喜びを分かち合いたい。また、散歩をすることで身体を適度に動かし、筋力を保ち、いつまでも元気で暮らせるように支援している。理念に掲げている『やさしい』を念頭に、常に笑顔が絶えないホームであるよう取り組んでいる。